

What a Wonderful World

Happy Doll Project によせて

ハッピードールは、世界でたった一つの手作りマスコットです。
同じものはひとつもありません、あるものは可憐で、あるものはユーモラス。
可笑しくて笑っちゃうものもあれば、妖しく魅了するものもあります。
人間がそうであるように、みんな違ってみんな魅力的です。
でも、どの人形もみな、味があって温かいという点では共通しています。
ひとつひとつは小さいけれど、全員集合すれば厚みのあるシンフォニーを奏で、
見る人たちを元気づける大きな力をもっています。
そしてこれらはすべての病院でつくられた、様々な願いがこめられたお守りなのです。

“病院の枠を越えて、人と人の心がつながる楽しさを運ぶことができたらどんなにすてきだろう…？”
今年1月からスタートした、全国の病院をつなぐハッピードールプロジェクトへと、
夢が向かっていったのです。

ハッピードールプロジェクトは、患者さんや医師、職員などが思い思いに制作した
マスコット人形をその病院で展示し、次の病院へとバトンタッチしていくもので、
この1年間に全国13ヶ所の施設をつなぎ、14回のワークショップが行われました。
各病院での展示には、それまで制作された他院の作品も告ぐ次加えられていき
世界に一つだけの人形がどんどん増え、楽しさも増していきました。

この病院プロジェクトに人形づくりを選択したきっかけは、アーティストの一瀬晴美さんでした。
入退院を繰り返す彼女は、病院がより癒される場所になることを誰よりも願い
私たちホスピタルアート活動に協力してくれました。
癌末期で余命宣告を受けた後も、彼女はかわいい人形をつくり続け
私たちの心を和ませてくれたのです。
“このやさしい素材と自由な手法であれば、
患いをもって入院中の患者さんでも親しめるのではないだろうか…？”
こうして、彼女が遺した自由闊達な人形をナビゲーターに、私たちは病院を訪ね回りました。
このプロジェクトは、病院環境をより温かな雰囲気にしたと望んだ一瀬晴美さんと、
引き続き夢追う楽しいたびでもありました。

病院と人と作品と心が温かくつながることを夢見て半ば強引にはじめたこのプロジェクト。
ふり返れば、よく実現したものだと思います。作品と展示パネルを収納した箱は、
全国行脚の長旅でボロボロになりました。しかし、人形は大幅に増え、豊かになって戻ってきました。
各病院で出会った様々な方の笑顔が浮かびます。
元気に退院した方、まだ入院している方、そして先立たれた方もいらっしゃるでしょう。
誰もがいつか死を迎えます。その瞬間まで笑いながら生きて、「ああ楽しかった！」と逝きたいものです。

これらの明るく、独創的で、夢があり、ちょっと切ないハッピードールたちを目の前にして、
プロジェクトに参加された方々や支えてくださったすべての方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。
全国の人々に創られ、ハッピーを増殖させ膨らんだハッピードール群団は、
同時代を今、ともに生きる共感と慈愛とパワーの象徴のようです。
そしてこの小さな作品集を手にした方の元へも、
ハッピーパワーが到達するであろうことを心から願っています。